

人生100歳、働き方の多様性

COLUMN
県内
大学発

経世済民

648

「人生100歳」時代における働き方は根本的に変わってくる。「人生80歳」と言われたこれまでであれば、65歳までは働き、その後は年金生活あるいは小遣い稼ぎ程度の仕事を体が動く限り行い、余生を過ごすといった人生が大半ではないだろうか。しかしながら、寿命が100歳となるとそう簡単にはいかない。十分な資産を築いてリタイアする場合を除き、年金、貯蓄、小遣い程度だけの収入では足りず、80歳近くまで現役として働き続けていくことが求められる。

ではどんな仕事であれば高齢者になっても働くことができるのか。会社経営や飲食店などの自営業、弁護士などの士業、起業家、スポーツ関連の指導者、作家などの職業は定年がない仕事として挙げられる。若く年代の時

から自立できるスキルを身につけておくことは必須であるが、民間企業や官公庁などで働いて定年退職を迎える多くの人にとってどのような選択肢があるのか、二つのタイプとそのメリット、デメリットを紹介したい。

■副業型

本業と関連する仕事やあるいは本業とは異なる分野やスキルを生かした仕事を請負う、あるいは自己成長やスキルの向上、趣味の活動を収益化することで将来の独立につながる、などが挙げられる。

■複業型

メインの仕事・サブの仕事といった優先順位を付けず、複数の仕事を同時に本業として取り組む働き方である。例えば、起業してビジネスを立ち上げるとともに他社からのビジネスをリモートで請け負う、などが挙げ

埼玉学園大学 反田 和成
経済経営学部 教授



これらのデメリットを回避するには、個人の能力やライフスタイルに合わせて、副業や複業の選択を慎重に検討する必要がある。また、人生100歳を前提として約60年近く働くとするなら、健康な肉体と精神の両方を維持して行くことが第一義的な条件となる。高年齢になっても適度な運動を習慣化して体力の維持に努める、音楽・芸術を趣味に持つなど脳の活性化を意識して取り組むといったチャレンジ精神はいつまでも持ち続けたい。

最後に、今までは20歳代までに受けた教育で仕事を続けてこられたが、人工知能(AI)やロボットの進化、外国人労働者の増加などにより産業構造が常に変化する今後においては、外部環境の変化や各年代に応じた新しい知識やスキルを修得するといったリスクリングに積極的に取り組むことが不可欠である。

■副業、複業のデメリット

【1】複数の仕事やビジネスを同時に行うため、時間とエネルギーを効果的に管理する必要がある。【2】複数の仕事を行うことでストレスや疲労感が増す。【3】家族、趣味、休息などプライベートの時間を犠牲にする可能性がある。

そった・かずなり 1956年生まれ。慶應義塾大学経済学部経済学科卒。青山学院大学院会計プロフェッション研究科修了(会計修士)。総合商社丸紅を経て、2016年1月香川大学大学院地域マネジメント研究科教授に着任。その後、21年4月より現職。経営行動研究学会理事(21年9月、24年8月)。専門は総合商社論、中小企業論、ベンチャービジネス論、国際経営論。